

市民科学の活用を見据えた
香川県産汽水・淡水魚類の図鑑作成プロジェクト



香川大学生物研究会

プロジェクト代表 石井良典(農4)

プロジェクトの概要

■ 活動背景

- ◆ 今も昔も、水辺の環境は、農業、水産業、工業など多くの場面で重要な存在
- ◆ 一方で、人間活動による水圏環境への負荷は日増しに高まっている
- ◆ 水圏の主人公ともいえる魚類は多くが絶滅危惧種に指定され、一部は絶滅を経験
- ◆ 気候変動や化学的汚染など、魚類を取り巻く環境が大きく変化する現代において、その生態を継続的にモニターし、高解像で把握することは社会的な課題ともいえる

■ 活動目的

- ◆ 汽水・淡水域に生息する魚類を中心とした調査研究を行い、その成果を親しみやすいオンライン図鑑として発信する。
- ◆ 採集や生物の同定に必要な知識をまとめたパンフレットを公共施設等で配布し、市民参加型の活動としての展開を試みる。

プロジェクトの実施状況

香川県内全域を対象とした汽水・淡水魚類調査

- ◆ たも網を用いて川岸に繁茂する植物や水草を掬い取る手法を用いて採集を実施した
- ◆ 採集した魚類は中坊(2013), 細谷(2015)をはじめ各種論文等に従って同定した
- ◆ 本村(2009)に従って標本を作製し, 管理した

中坊徹次(編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, 1-3 巻. 東海大学出版会.
細谷和海(編). 2015. 日本の淡水魚. 山と溪谷社.
本村浩之(編). 2009. 魚類標本の作成と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館.

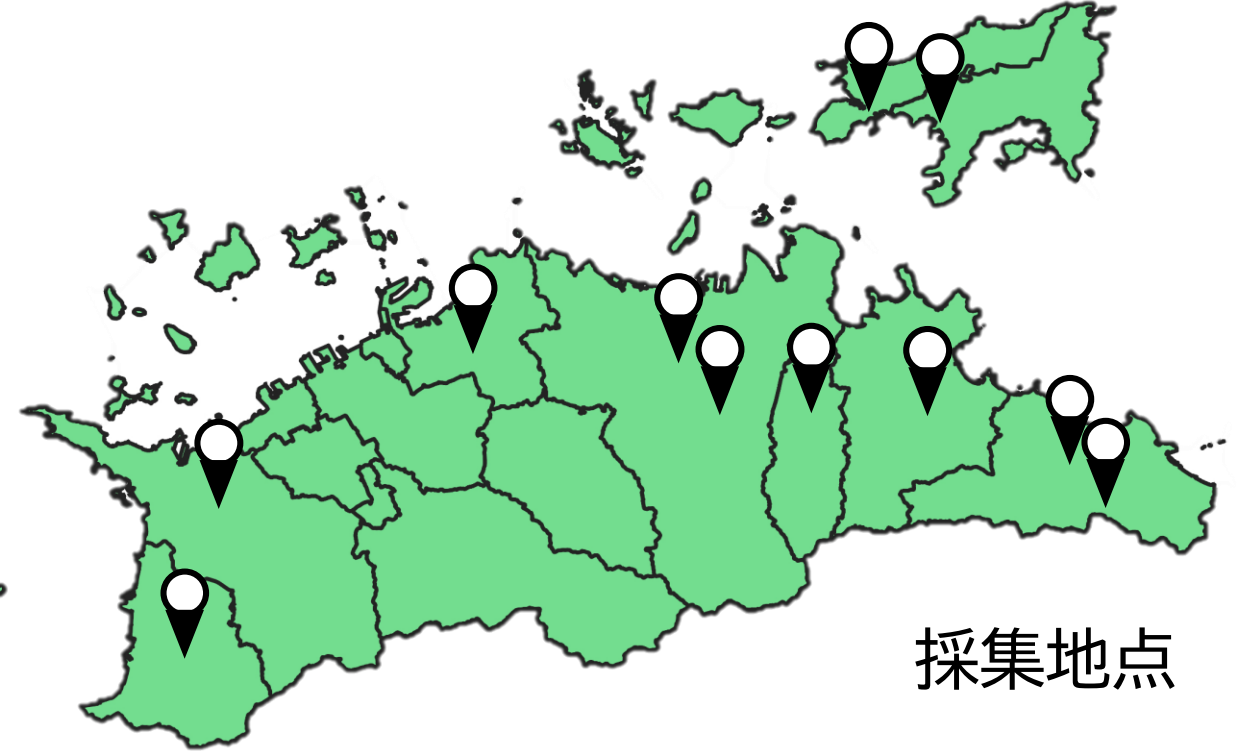


三豊市での調査のようす



小豆島での調査のようす

プロジェクトの実施状況



香川県内11か所において、
採集調査を実施した。

採集地点

採集した魚類の一例



||



オイカワ

Opsariichthys platypus (Temminck & Schlegel, 1846)



||



コイ

Cyprinus carpio (L. 1758)



カマツカ

Pseudogobio esocinus (Temminck & Schlegel, 1846)



オオクチバス

Micropterus nigricans (Cuvier, 1828)

プロジェクトの実施状況

■ 淡水エビ類

- ◆ 魚類のほか、小型の淡水エビ類を多数採集した
- ◆ 形態学的特徴からカワリヌマエビ属の外来種であることが強く示唆された
- ◆ 一方で、香川県(2021)で多産するとされた在来種ミナミヌマエビは認められず、著しい個体数の減少、または既に絶滅した可能性がある

